



廿日市市教委だより

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

平成28年
7月14日
第2号

1学期が終わります。皆さんにとって、どのような学期でしたか。終わってみるとあっという間だったという方も多いのではないのでしょうか。

夏季休業中に1学期の取組を振り返り、成果と課題を明らかにするとともに、課題についてはみんなで知恵を出し合って、2学期に笑顔で子どもを迎えることができるようにしていきましょう。



第1回廿日市市「学びの革新」推進協議会を開催しました

第2回目は8月2日(火)開催。
教務主任研修と一部合同です。

6月23日(木)に四季が丘小学校を会場に、各校の研究主任の先生が集まりました。

この会は、**平成30年度から全県展開**(県内全ての学校で「課題発見・解決学習」が行われ、全ての先生が主体的な学びを促す授業を行うこと。)となる「学びの革新」アクション・プランの考え方、目指す授業の姿について理解し、各学校で普及するために年間3回行います。



模擬授業(グループ活動)

第1回のこの日は、四季が丘小学校の松田教諭による算数科の模擬授業を行いました。正三角形上のおはじきの数を数えるため、事前にL字形やU字形で考えるという単元計画の工夫が見られました。

その後の協議の中で、パイロット校である四季が丘小学校と大野中学校から「課題発見・解決学習」の単元計画作成のアドバイスを聞きました。研究主任の先生方は、**単元終了時のゴールイメージを明確にすること、必然性のある課題を設定すること**などのアドバイスを熱心に聞いていました。



協議会の司会はパイロット教員
大野中の木村教諭が行いました。

今後、各小・中学校では「児童生徒の主体的な学びを促す」ための取組を設定して、実践することにしています。また、「課題発見・解決学習」の単元計画を1つ作成し、第3回の推進協議会に持ち寄ることにしています。

【受講者の感想から】

- 模擬授業をもとに協議したことで、主体的な学びを促す授業のイメージがはっきりしてきた。
- 課題の設定や提示の仕方はアクティブ・ラーニングの要だと思うので、授業では課題設定を工夫していきたい。

22名が「子ども司書」を目指しています！

市教委では、読書活動を推進するリーダーとなる「子ども司書」を養成する講座を行っています。

今年度は市内10小学校の6年生22名が参加し、6月18日(土)に全体研修を行いました。子どもたちは最初は緊張気味でしたが、グループでのビブリオバトルなどを通じて、少しずつ会話も増えてきました。

これから、「子ども司書」としての認定を目指して、地域の図書館での実地研修や学校での活動を行います。図書館や学校で子どもたちを見かけたら、応援してください。



参加者の1年間の平均読書冊数は128冊！なかなかの読書家です。

【児童の感想から】

ビブリオバトルでは、みんなとコミュニケーションができたり、おすすめの本を知ることができたり、楽しいことがたくさんありました。違う学校の人とも仲良くなれてよかったです。

学校現場ではベテランが退職し、初任者が増えてきています。その中で、指導技術を継承していくことは大きな課題です。今回の市教委だよりでは、廿日市小学校に今年度採用された平田仁美教諭と長谷川真央教諭の2名の先生と、先輩である曾根芳子主幹教諭から話を伺いました。

後輩から



左から平田教諭、長谷川教諭

先輩には助けていただいています。もちろん厳しく教えられることもあります。

Q：なぜ教師になろうと思ったのですか。また、10年後どんな教師になりたいですか。

A：学校が好きで、小学校からいい先生に出会ってきたからです。10年後は、信頼される先生になりたいです。（平田）

A：振り返ると、小学校の6年間で一番楽しく学べました。子どもも好きだから教師になろうと思いました。10年後は子どもと信頼関係を築き、後輩に教えることができる先生になりたいです。（長谷川）

Q：先輩方を見てすごいと思うことを教えてください。

A：とても忙しいのに、授業の準備をしたり掲示物を作ったりされています。時間を上手に使われているところがすごいです。（平田）

A：疲れていてもしんどさを見せず、子どもと笑顔で接しているところです。子どもの前では役者だなと思います。（長谷川）

Q：廿日市小学校に勤務してよかったことを教えてください。

A：廿日市に勤務することは初めてで、最初は不安でしたが、校長先生を始め、先生方に助けていただいています。地域の人との関わりも強い学校です。（平田）

A：大学を卒業してすぐに学校に勤務し、分からないことも多かったけど、子どもらしいいい子たちばかりで、毎日楽しいです。（長谷川）

先輩から



曾根芳子主幹教諭

初任者の様子はいつも気を付けてみています。

Q：初任者を見て、どう思いますか。

A：子どもと歳が近く、子どもたちも楽しそうだなと思います。また、今の初任者は研修が多く、示範授業や参観授業などがあり、恵まれていると思います。

Q：初任者にはどのような教師になってほしいですか。

A：今は「若さ」が武器になっています。経験を積んで、授業力がある教師になってほしいです。

Q：どのように初任者や若い先生を育てていますか。

A：私個人では、初任者が自分で課題に気付けるよう、それとなく示唆を与えています。本校では、校長先生発案で「さくらサロン」をオープンしています。金曜日の勤務時間後に行う出入り自由のサロンです。お菓子を食べながら、普段聞けない話をしています。ちょっとしたコツを伝える場になっています。



さくらサロンでは普段あまり話さない先生とも話ができます。

3人のインタビューから、日々一生懸命な初任者と、初任者を支えて育てようとしている先生方の温かい雰囲気伝わってきました。「さくらサロン」のように気軽なコミュニケーションの場は、初任者のみならずすべての先生方にとって有意義だと思いました。

生徒指導 スキルアップ! ②

「127人」から「149人」に増加

この数字は何だと思いませんか？

この数字は、H26年度とH27年度の廿日市市の不登校児童生徒の人数です。発生の割合もH24年度から連続して県平均を上回っており、大きな課題だと言えます。

慌しい学期末が終わり、夏休みがやってきます。この夏休み中は1学期の取組を見直すにはとてもいい期間です。

生徒指導の取組を見直す上で、

「今の学校・学級の実態（課題）はどうなっているのか？」と考えること（実態把握）は重要です。

そこで、ぜひ夏休みに学校・学級の不登校対策についても考えてみてください。ポイントは・・・

👉 スキルアップ ポイント！

○実態（課題）把握

・欠席状況等を整理する。（欠席30日未満も含め）

○対応策の検討

・個々の児童生徒の実状に合った対応策を検討する。

・組織的・継続的な支援を計画する。

また、言うまでも無く、未然防止が一番重要です。そのため、子どもどうしのつながりを大切にしているつなプロを充実させていきましょう。

